

特別支援教育について

～ 困り感をもつ児童への支援 ～



南城市立佐敷小学校
校内支援委員会

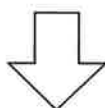
◆ 「特殊教育」から「特別支援教育」へ

- 平成19年4月より、それまで「特殊教育」と呼ばれていたものが、支援の対象を広げて「特別支援教育」になりました。
- 「特殊教育」は、障害の種類や程度に応じて、盲・聾・養護学校や特殊学級などの特別な場で教育を行っていましたが、「特別支援教育」は通常の学級に在籍する発達障害を有する児童生徒を含めて、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育的支援を行っていくものです。

◆ 特別支援教育の対象となる児童は・・・

- これまでの特殊教育対象の児童生徒(全体の約2%)
- 通常学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒(全体の約6.5%)

こんな子いませんか？



聞く・話す

- ・一斉指示ではわからない
- ・聞き違い、聞きもらしが多い
- ・自分の思いを伝えられない



読む・書く

- ・行をとばして読む ・たどたどしく読む
- ・よく似た漢字を書き間違う
- ・鏡文字になる ・漢字が覚えられない



計算する・推論する

- ・計算に時間がかかる ・計算ミスが多い
- ・位取りが混乱する ・図形や応用問題が苦手

運動する・動作する

- ・動きがぎこちない ・人とあわせる動きが難しい
- ・なわとび・ボールなど、物をうまく使えない
- ・はさみやコンパスが苦手

行動する

- ・落ち着かない、立ち歩く
- ・気が散りやすい ・こだわりが強い
- ・一番にならないと気がすまない
- ・すぐかっとなる ・友だちとうまく遊べない
- ・話の途中で口をはさむ ・場の空気が読めない

生活する

- ・忘れ物が多い
- ・片付けができない
- ・自分に自信がなく、チャレンジしない
- ・準備ができない
- ・新しい環境や変化が苦手



◆ 佐敷小学校では・・・

- 学校長を代表とする「校内支援委員会」で、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な支援を考えていきます。
- 保護者との教育相談を通して、家庭と学校の連携をサポートします。また、必要に応じて、個別の指導計画を作成し、目標を設定して役割分担を考えます。
- 学校内だけの教育だけではなく、児童への支援に関して相談できる医療や福祉、教育センターなどの専門機関の紹介を行い連携を図ります。

つまずきに気づいたところから支援が始まります。気になることがあれば、担任、または、特別支援教育コーディネーターに相談してください。

特別支援コーディネーター相談日：毎週水曜日（午後4時～午後5時）TEL 947-6212



小学校就学に向けて

～通級・支援学級・特別支援学校の内容と手続き～

「子ども達に、次のような気になる様子がみられませんか？」

読み書きが苦手



整理整頓が苦手



トラブルが多い



持病がある



本人の困り感に寄り添う学びの場があります！

1 通級指導教室

- おおむね通常学級で学習し、週に1・2時間、通級指導教室に通い、自立活動を行います。
(読み方・聞き方・コミュニケーション等の学習)
- 対象(知的障害は含まない)
学習障害・注意欠陥多動性障害・視覚・聴覚言語

メリット

通常学級に在籍しながら、苦手な部分の学習(自立活動)ができます。

2 特別支援学級

(1学級最大8人、通常学級との交流・共同学習もできます。)

- ①知的学級
学年にこだわらず、本人の理解できるところから生活体験を通して学びます。
- ②自閉・情緒学級
安心できる雰囲気の中で当該学年の学習を進めます。
(自立活動でコミュニケーションや情緒の安定等を学びます)
- ③肢体不自由学級 ④弱視学級 ⑤難聴学級 ⑥言語学級
- ⑦病弱・身体虚弱学級

メリット

○少人数で授業が受けられます。
○自分のペースで学べる。
○安心できる環境で集中して学べます。

3 特別支援学校(県立)

- ①盲学校 ②ろう学校
- ③知的障害 ④肢体不自由 ⑤病弱・身体虚弱

メリット

○子供の障害や発達に応じたより細やかな支援が受けられます。

